

知見の囲炉裏端

いろいろばた 観望庵 Vol.8



高島 秀行



昨今、セクハラだ、パワハラだの類(たぐい)がやたら増え、ゆゆしきことである。マタハラ、パタハラ、ケアハラ、等何でもハラスメントのオンパレードである。中でもセクハラは男女の性差から来るもので、男女の機微に触れるので批判しづらいやっかいなものである。かつて周防監督が映画「それでもやってない」と痴漢でない事の証明が極めて困難なことを取り上げた。

さりとて、ケースは違うが、TV朝日の女性記者が、某次官との会食で、隠しマイクで相手の発言を録音し、匿名を条件に某雑誌社に渡し、記事にした。それは面白がって続者は読むであろうが、肝心の記者は匿名のままで通し、TV朝日も、抗議と言われても、ネタは欲しいしムニャムニャ、告訴するならまだしも、本人は告訴したら名前が出るので困るのだという。お蔭で、週刊誌は売れて、起因者の某次官は退官させられた。女性記者さんは、頭に来たら、退席すればいいことなのに。記者さんの目的は何だったのだろうか？ 発言を憎んでの嫌がらせのリベンジハラスメント？

麻生さんは、国会で財務大臣としてこの責任を問われて、さ一何罪に当たるのか？ と、とぼけた事を言っていたが、誠にアホくさい話である。

それよりも、近年のモラルハザードの方が大きな問題ではなかろうか。壁や寺院に、ペンキの類でいたずら書きをする、SNSなどでの悪質な中傷など。そして、陰湿ないじめ、嫌がらせの類である。モリカケの口撃に終始する国会のやりとりを見て、子供らはどう思うだろうか？ 日本は決して、よく観光客やマスコミに言われているような、親切でおもてなしに満ちた国ではなくなって来ているのではないのではないか？ 戦後教育のツケも大きいですが、現在も、マスコミや国会が潜在的原因を作っているのではないかと。